平成２８年度　第２回社会教育委員会議　会議録

日　時　平成２８年１０月１９日（水）
午後２時　開会
会　場　蕨市役所　４階　第１・２委員会室

出席委員／　水野、徳丸、佐藤(一)、澤田、松浦、新妻、平井、佐藤(教)、佐藤(則)、松﨑、藤川、前野　各委員

欠席委員／　栃本、前川、比企　各委員

議事参与者／　松本教育長、須崎教育部長、加納館長（中央公民館)、岡部館長（東公民館)、星野館長（西公民館)、坂本館長（南公民館)、松永館長（北町公民館)、大山館長（下蕨公民館)、小松副参事・館長（図書館)、小栗館長（歴史民俗資料館）井田館長（旭町公民館・指定管理者）

事 務 局／　榎本教育部次長・生涯学習スポーツ課長、野田生涯学習スポーツ課長補佐・スポーツ推進係長、鈴木生涯学習振興係長、竹田生涯学習スポーツ課主査

１　開　　会　　午後２時

２　あいさつ

澤田　久恵　議長
松本　隆男　教育長

３　前回会議録の承認

承認された。

４　議　　事

・報　告

（１）生涯学習関連事業等について　　　　　　　　　　**【資料１】**

上記のことについて、事務局から報告があった。

質疑なし。

（２）平成２８年度合宿通学事業について　　　　　　　　**【資料２】**

上記のことについて、事務局から報告があった。

委　員：　参加者の男女比をみると、毎年のことではあるが、今年度も圧倒的に女子の方が多くなっている。これは男子と女子の行動パターンの違いによるものなのだろうか。募集の段階で男女間に差はあるのか。

事務局：　統計上では、女子の参加がかなり多くなっている。
参加者の男女比が大きく偏ると、班分けや宿泊部屋の割り振りが困難となるので、そこも考慮しながら抽選を行っているが、募集の段階から女子が多い傾向にある。
合宿通学以外の事業でも、参加者は女子の方が多く見受けられる。

委　員：　参加人数について、募集人数に対して参加決定人数が多い地区と少ない地区があるが、その理由は何か。

事務局：　募集人数については、要項上は各地区とも約２０名とあるが、地域の実情に合わせて増減させている。特に塚越地区は、地区に小学校が２校あり、対象となる４年生から６年生の児童の数も多いため､実行委員会で検討を行い、会場となる公民館の設備・部屋の広さ等を考慮して、他地区より多い人数を募集している。
募集人数との差については、募集の締め切り後に参加希望者の男女比や学年構成を考慮して最終的な参加人数を決めているので、募集時とは一致しないこともある。また、事業日の直前のキャンセル等により欠員を補充できない場合には、定員を満たさないまま実施することもある。

委　員：　北町地区は、今年度は北町公民館の耐震工事のため、合宿通学が実施されなかったが、来年度は例年通り実施する予定はあるか。

北町公民館長：　来年度は実施する方向で検討していきたい。

（３）第３３回蕨市けやき文化賞について　【資料３】

上記のことについて、事務局から報告があった。
質疑なし。

（４）平成２８年度蕨市文化活動事業助成について　【資料４】

上記のことについて、事務局から報告があった。
質疑なし。

（５）音楽によるまちづくり事業の進捗について　【資料５】

上記のことについて、事務局から報告があった。
質疑なし。

・協　　議

（１）社会教育関係団体の認定について　　　　　　　　　　【資料６】

４件の認定申請があり、事務局及び各公民館長から説明があった。

～協議の結果、全て承認された。

・最後に全体を通して、委員から意見を聴取した。

委　員：　音楽によるまちづくり事業のひとつである小中学校への音楽家派遣について、第一中学校では１０月２９日（土）に合唱祭を開催し、審査員としてプロの音楽家を派遣していただく予定である。

昨年度は、音楽家の方に音楽部の指導に来ていただいた。子どもたちを熱心に指導していただき、今年は音楽部が関東の合唱コンクールで金賞を取ることができた。色々な方々にご指導・ご支援いただいた成果だと思っている。

委　員：　全国的に、特に国では、社会教育の場である公民館をコミュニティ・センターに変えていくという流れにある。そういう動向の中で、蕨の社会教育委員会議に参加させていただくと、社会教育を通じて市民の方々が密度の濃い活動をお互いの絆を深めながら作り出している、と感じる。

自分が在住しているさいたま市のような大きなまちでは、公民館利用サークルは数多くあるが、サークル活動だけで終わっていることが多い。蕨では、合唱祭や音楽祭等いろいろな行事に参加したり、子ども音楽大学では子どもと一緒に地域を繋いで行こうという思いを持って活動したりしている。地元の方々が社会教育に熱心に参加しているまちだと思う。

この伝統は、社会教育の５０年以上の歴史があってこそ作り出される。これを崩してしまうのはすごく簡単なことである。維持するためには、市民一人ひとりが、自らが学ぶことで自らが文化を創造しているのだという喜びを持ち、お互いに共有できるよう、蕨の社会教育を応援し守っていく必要がある。学校教育と違ってその意義が見えにくいので、意識的に守っていかなければならない。

教育長をはじめとする各位が社会教育に力を入れていて、子ども達が色々な形で育っているという、蕨市のまちの特徴を実感しているところである。

議　長：　蕨は「コンパクトシティ」と言われているが、地域的に狭い中で公民館活動などが活発に行われ、市民がお互いに繋がりを持っている。

また、社会教育関係団体の認定等を通じて、教育委員会にさまざまな支援をいただきありがたく思う。活動しやすい環境が作られていると感じている。

委　員：　社会教育関係団体であれば公民館使用料が免除されるというのは、全国的にも珍しくなってきている。蕨市でそれを守っていくことで、今まで以上に

公民館の利用が活発になると思う。

公民館活動が活発になることでいろいろな繋がりも生まれていく。それは同じ活動内容の団体間の繋がりだけにとどまらない。各公民館にはクラブ協議会という横の繋がりがあり、年に１回、公民館の大掃除をしたり、フェスティバルの時に協力をし合ったりすることは素晴らしいと思う。

このように、蕨市は地域を大切にしているまちであり、ゆとりのある文化的な香りのある中で素晴らしい子どもたちが育っているまちだと思う。この風土を私はとても愛しており、蕨が大好きである。市民みんなが蕨を大好きになれば、人口流出等の問題は起きないと思う。これを守っていけたら良いと考えている。

委　員：　蕨市では、地区ごとに公民館で生涯学習フェスティバルを開催している。公民館活動は、自分の団体の活動だけ行っていると、公民館に行って活動して帰ってくるだけの繰り返しになってしまう。しかし、フェスティバルに参加していると、他団体との横の繋がりや交流があり、フェスティバル以外でも何かを一緒にやりましょうということになる。

生涯学習フェスティバルは地元に根付いた取り組みになっており、地元の方がたくさん来場する。大勢の方にいらしていただいて事業が盛り上がると、運営している側としても達成感がある。

委　員：　蕨市は本当に生涯学習関連のイベントが多く、自分が関わっているものも多くある。自分達でイベントを主催・運営している時は、同じ日程のイベントに参加したくてもできないことがある。

イベントが充実しているのは良いが、狭い市の中でイベントが常に行われているので、お客さんの取り合いになっている。そのため、イベントによっては参加者が減少しているものもあるので、いくつかのイベントを同時開催にするなど、開催方法の見直しも必要だと思う。

また、どのイベントも運営に同じ方々が携わっており、それはそれで素晴らしいことだが、新しい人たちが入りやすい空気を作ることも必要である。ネットワークステーションで始まったアクティブ・シニア事業は、地域で活動したい人材を新たに発掘していくもので、その方たちが生涯学習に関わるようになったら良いと思う。

ネットワークステーションでは、外国人の子ども達に向けた支援を行うことができないかという相談を受けることがある。子ども達が抱えている問題は切実である。例えば、保護者が日本語を話せないために、ＰＴＡ活動に参加できず、親子とも疎外感を受けてしまう。また、学校の通知が理解できないために必要な持ち物を用意できなかったり、行事に参加できなかったりして、子どもが周りから何か言われてしまう。そういった事が起きている。蕨

市では公民館で日本語ボランティア養成講座も開催されているが、その他にも地域で出来ることは何かあるだろうか、と考えている。

前回の会議で子ども食堂のチラシを配布させていただいた。まだ西小学校のみの配布だが、これから他の学校にも配布する予定である。気になる子どもやなかなか地域に溶け込めない保護者がいたら、お声掛けいただければ幸いである。

委　員：　私は北町公民館・市民体育館を中心に活動をしているが、改修工事中の活動がどうなるかとても心配していた。しかし、教育長や館長が市内各地域の公民館や川口市の施設等に休館中の代替施設として利用できるようお声掛けをしていただいたおかげで、とても順調にクラブ活動を行うことが出来ている。

委　員：　２０２０年に開催される東京オリンピックでは、開催都市もそうでない都市も、スポーツの振興は元より、文化・生活等さまざまな分野でムードを盛り上げたいと各種イベントを計画していると聞いている。蕨市ではどのような事業を行う予定があるのか伺いたい。

自分としては、例えば来日する外国人と交流するためのボランティア養成、外国人向けの蕨宿のＰＲ、外国人選手と子どもたちの交流等ができれば良いと考えている。

東京近隣の市町村では、海外の選手のキャンプ地を誘致しようという動きもある。出来ればそういったアドバルーンを上げながら、普段できないことが出来ると良いと思う。

事務局：　具体的には、まだ大きな事業を計画していないが、蕨市を聖火リレーのルートに入れて欲しいという申し入れを行なったり、また河鍋暁斎の絵は外国人にとても人気があるので、河鍋暁斎記念美術館を訪れやすくなるようにコミュニティバスの運行ルートを検討したり、少しずつ動き始めている状況ではある。

委　員：　４年間限定ではなく、それが呼び水になってオリンピック後も広がって行くような事業が考えられれば良いと思う。

委　員：　音楽によるまちづくり推進事業について、昨年が初年度で何をやったらよいか分からないことが多かった。今年は２年目なので、例えば子ども音楽大学では子どもたちがどういう事を知りたいのか、だんだん分かるようになってきた。

市民音楽祭は、１１月２０日に練習、２３日に本番の演奏会が開催されるが、他の事業と重なるために参加できない団体もあった。いろいろな事業が盛んになるにつれて、予定が重なってしまう人が出てくる。

会場の市民会館・中央公民館は、来年は耐震改修工事で休館となるが、ど

のような工事が行われるのか伺いたい。

また、現在の市民会館と文化ホールくるるの施設は、出演者の立場からは使い勝手が悪い（くるるの舞台袖のドアの開く方向、ＰＡ卓の位置等）ので、舞台の改修や音響機器の入れ替えがある時には、音楽の専門家の意見も取り入れて欲しいと思う。

中央公民館長：　改修工事の予定期間は平成２９年７月１日から３０年１月６日までで、その間は休館となる。工事の内容としては、施設の耐震がメインであり、細部に関してはまだ設計中のため詳細は未定である。

委　員：　１０月１日に南町地区の生涯学習フェスティバルがあり、フィナーレに第一中学校の音楽部が出演してくださった。例年は、観客が最後まで参加せずに帰る方も多かったが、今年は全員残っていた。とても感謝している。

合宿通学では、南町地区が９月１８日（日）の朝日新聞朝刊の記事となった。南公民館で子ども達が炊事をしているところが大きく出ており、良いＰＲになったと思う。記事内では南公民館長が「活動を続けることで、逆に地域の大人同士の絆が強まるんです。」とお話しされていたが、私も町会から参加させていただいて、本当にそうだなと感じている。

委　員：　私が学校のＰＴＡとしていろいろな会合に出席していると、学校・家庭・地域の連携という言葉がよく出てくる。ＰＴＡ活動は近年下火になってきており、関わりたくない人も増えている。活動も決められたことを淡々とこなしている状況である。そのような中、北小ではＰＴＡ行事をひとつ増やした。「北フェス」という名称で子ども祭りを行い、第二中学校の吹奏楽部や、地域の婦人会の方、プレーパーク運営サークルの方にも協力をいただいた。父母だけでなく、地域の方にも参加いただくＰＴＡ行事は大変好評であった。今後も引き続き実施していければと思う。

現在、北町公民館が休館中のため、北町公民館を利用して遊んでいた小学生が中央公民館を利用するようになっている。ところが、遊び方が良くないということで、中央公民館の方から注意を受けたと聞いた。周りに迷惑をかけないようにすることを子どもたちに教えるにはどうすればよいか、地域の教育力、家庭の教育力について悩むところではある。

議　長：　子ども音楽大学は最終日に市民会館コンクレレホールで発表があるが、家族・友人等の観覧は可能なのか。我々も観ることは出来るのか。

事務局：　最終日の発表会は、ホールを使ってそのまま本格的な演奏会をやってみようという主旨で実施している。観客については特に市民の方に広報は行ってはいないが、参加者のご家族・友達にお声掛けをして来場していただくようにしている。　また、本番だけでなく開演前の舞台上のリハーサルも公開し、保護者等が自由に見学できるようにしている。

７　その他

なし

８　閉　　会

徳丸　平太郎　副議長

午後３時５０分　閉会